※令和４年度以降入学生用

学校番号	３２６

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	(学) 実用書	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	くらしのペン習字（教育図書）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

硬筆や毛筆、筆ペンを使用します。書写能力を図るとともに、文字だけでなく水墨画や絵手紙・短冊などの制作を行い、生涯を通じて書を愛好し生活の中で書を生かす気持ちを育てます。実用的な文字の美しさとともに芸術的な感性や情操を養うことをめざします。また、文化的教養を身につけるとともに表現することを通じ、実用的な書の技術とマナーを身につけます。

2　学習の到達目標

書道の幅広い活動を通して、日常生活の中の様々な場面に対応する書写能力・表現能力を育成することを目指す。
⑴書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき効果的で基礎的な技能を身につけるようにする。
⑵書の良さや美しさを感受し、意図に基づいて構想したり、個性豊かに表現を工夫したり、書の美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。
⑶主体的に実用的な書の諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに感性を高め、書に対する幅広い興味・関心を持てる態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・様々な筆記用具を使用し、各々の特性の違いや多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき日常生活における実用的な書を表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。	書のよさや美しさや表現を感受し、作品や書の伝統を文化の意味や価値を考え、実用的な書の美を味わい捉えたりしている。	主体的に実用的な書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	硬筆	・硬筆(鉛筆・ボールペン)を使用し、楷書における美しい文字の形成や様々な書体について理解する。 ・硬筆書写検定の各設問	a:書体の特徴と表現効果との関わりについて理解している。(知) a:硬筆の用具・用材の特性から生み出される書の表現性とその表現効果との関わりについて理解	作品	プリント	振り返りプリント 観察

※令和４年度以降入学生用

		のポイントを理解し、漢字と平仮名、片仮名などの表現の調和と全体の構成を工夫しながら理解する。 ・部首や筆順、字形を適切に理解する。	している。（知） b:各書体の表現形式に応じた全体の構成について構想し工夫している。 c:主体的に硬筆の書の幅広い表現の鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（鑑）			
二学期	毛筆の書	・意図に基づき、楷書及び行書の書体や書風に即した用筆・運筆、字形全体の構成を工夫しながら表現する。 ・用具用材の特徴と表現と表現効果との関わり、現代の書の表現について理解している。	a:書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。（知） a:作品を効果的・創造的に表現するために必要な技術を身に付けている。（技） b:創造された作品の価値とその根拠、日常生活における書の効用について考え、書の良さや美しさを味わっている。（観） c:自身の表現の意図に基づく幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	作品	プリント	振り返りプリント 観察
三学期	小筆・筆ペン	・小筆や筆ペンを使用し、祝儀袋の表書きなど実用的な書写を体験する	a:目的や用途、表現形式に応じた全体の構成・感興や意図に応じた個性的な表現、現代に生きる創造的な表現について書の良さや美しさを味わって深く捉えている。（鑑） a:線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。（知） b:実用的な書について、意図に基づいて構想し、用筆・運筆、字形などを工夫している。 c:実用的な書について、日本の伝統的な文化の意味や価値について考えながら幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。（鑑）	作品	プリント	振り返りプリント 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度